

## 宵待ち隣町の宵涼み会について

7月1日(土)、笠置町のいこいの館で4年ぶりに宵待ち隣町の宵涼み会が開かれます。

このイベントは3町村の地域住民が文化活動の推進や文化交流を図り、地域社会の再生を考える機会としています。

詳しくは今月の折込チラシをご覧ください。



前回、開催の様子(ステージ)

## 相楽東部広域連合指定文化財について

4月3日(月)、南山城村南大河原にある長谷形十一面観音磨崖仏が相楽東部広域連合指定文化財に指定されました。これにより、連合管内で第4号の連合指定文化財が誕生しました。

教育委員会と文化財保護委員会では今後も連合管内の文化財保護や活用の取組をおこなっていく方針です。



長谷形十一面観音磨崖仏

## 和束町史編さんだより

### 第12回 江戸時代の和束川水害

和束川は、江戸時代にたびたび水害をおこしました。古文書に記録された事例を紹介します。なお、文中の日付は、旧暦です。

宝暦6年(1756年)9月16日夜の洪水では、下島村の古橋が流失しました。古橋は、現在の瓶原橋付近に架かっていた橋で、近江へ抜ける信楽街道筋の重要な橋でした。また原山村や杣田村では、田畑に土砂が入ったことから、年貢の減免を要求しています。

明和8年(1771年)の水害では、釜塚村で、一部の田地に土砂が入り込み、2年たっても作付けができないという被害が出ました。

享和2年(1802年)6月28日の台風では、各地で井堰や用水路、農道などが損壊したことから、村人たちは、禁裏御料を管轄する京都代官に対して、現地の見分をするよう訴えています。

慶応4年(1868年、明治元年)は、梅雨末期の大雨となり、5月12日に川原橋と杣田村長井の石橋とが流失しました。川原橋は現在の和束大橋の位置と思われますが、長期間復旧せず、人馬の往来に難儀しました。長井の石橋は長井橋の位置だと思われますが、詳細は不明です。

和束川の洪水により、たびたび橋が流失したことがわかりました。

問 相楽東部広域連合教育委員会 生涯学習課和束町史編さん室

☎ 0774・74・8952 HP <https://www.union.sourakutoubu.lg.jp>



慶応4年の洪水の古文書

本文1行目に「大雨降り続き、素より和束川筋高水」、2行目に「強雨大洪水」とあります。